クラウドロガー
取扱説明書

８ - データ収集モード 端末設定

エコモット株式会社

設定ツール画面操作説明

事前に『６ － 設定準備』をご参照の上 RemoteSANSetup を立ち上げ、データ収集モード（サーバーモード）設定画面を表示してください。

①［接続］

CRG 接続の為のドメイン、ユーザー名、パスワードの設定をします。

②［メール］

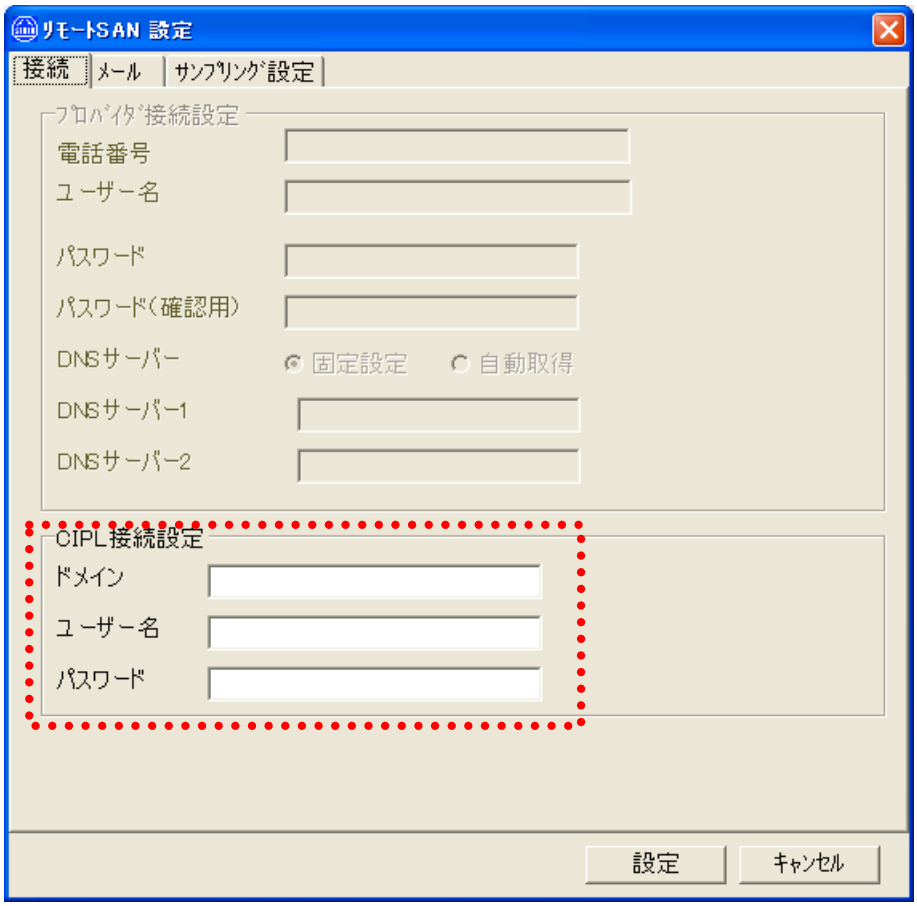
端末から配信する緊急メール用のメールアカウントの設定をします。

※メールアカウントはお客様でご用意ください。

③［サンプリング設定］

データを送信するセンターサーバーの設定をします。

［接続設定］



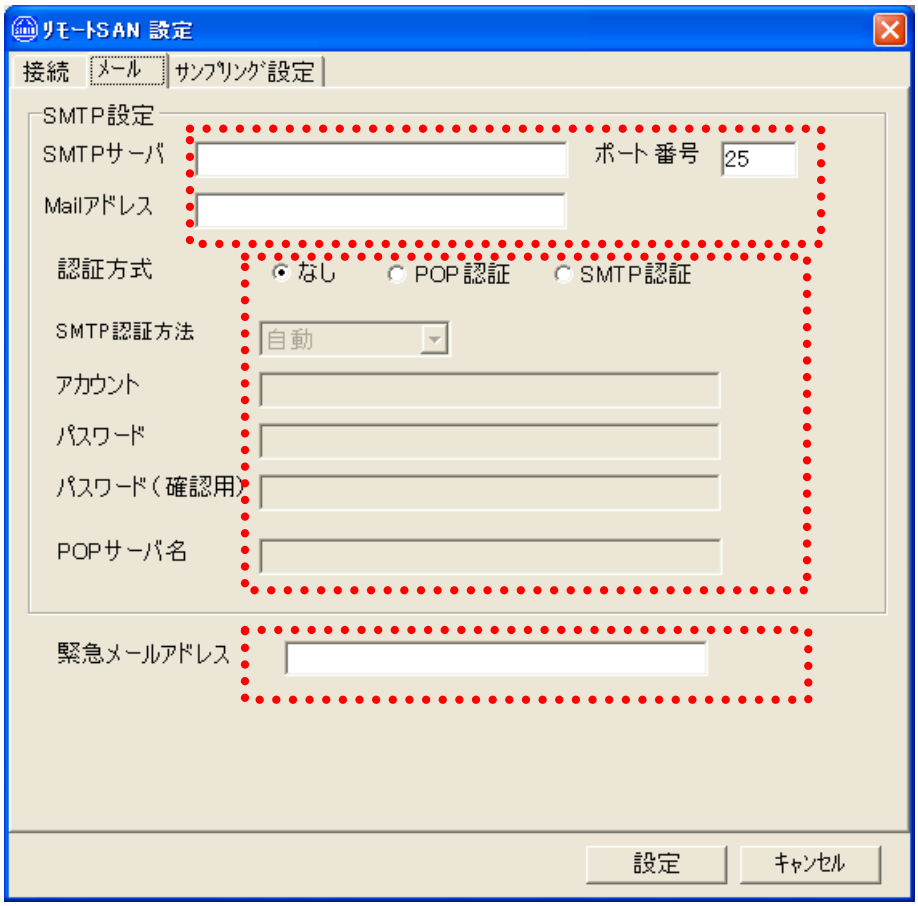
［ドメイン］　　CRG回線により決定されます

［ユーザー名］　　CRG登録（ＩＰアドレス取得）時に決定されます

［パスワード］　　CRG 登録（ＩＰアドレス取得）時に決定されます

［メール設定］

緊急メールは端末よりサーバへのＰＰＰ接続不可の際、メールを送信する機能です。
設定内容はご利用のプロバイダに確認の上設定してください。



メール設定（送信サーバ　ＳＭＴＰ）
　ご利用のプロバイダのアカウントを設定してください。

［ＳＭＴＰ設定］

ＳＭＴＰサーバ	ＩＰアドレスまたはサーバ名を入れてください。
Ｍａｉｌアドレス	メールアドレスを入力してください。
認証方式	メールサーバの認証方式を選択してください。
ＳＭＴＰ認証方法	ＳＭＴＰ認証の場合、認証方法を選択してください。 （PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5 に対応）
アカウント・パスワード	ご利用のアカウント情報を入力してください。
ＰＯＰサーバ名	ＰＯＰ認証の場合に入力してください。 ポート番号は 110 の固定になります

※２００８年９月以降はＳＭＴＰ認証に対応したメールサーバの使用に限ります。

［緊急メールアドレス］

緊急メールの配信先を設定します。

緊急メール内容

```
①  from: xxxxxx@xxxx

②  Subject: RemoteSAN Emergency Mail!!

③  PPP cannot be connected.
   09012345678
```

① 送信者
・【Mail アドレス】

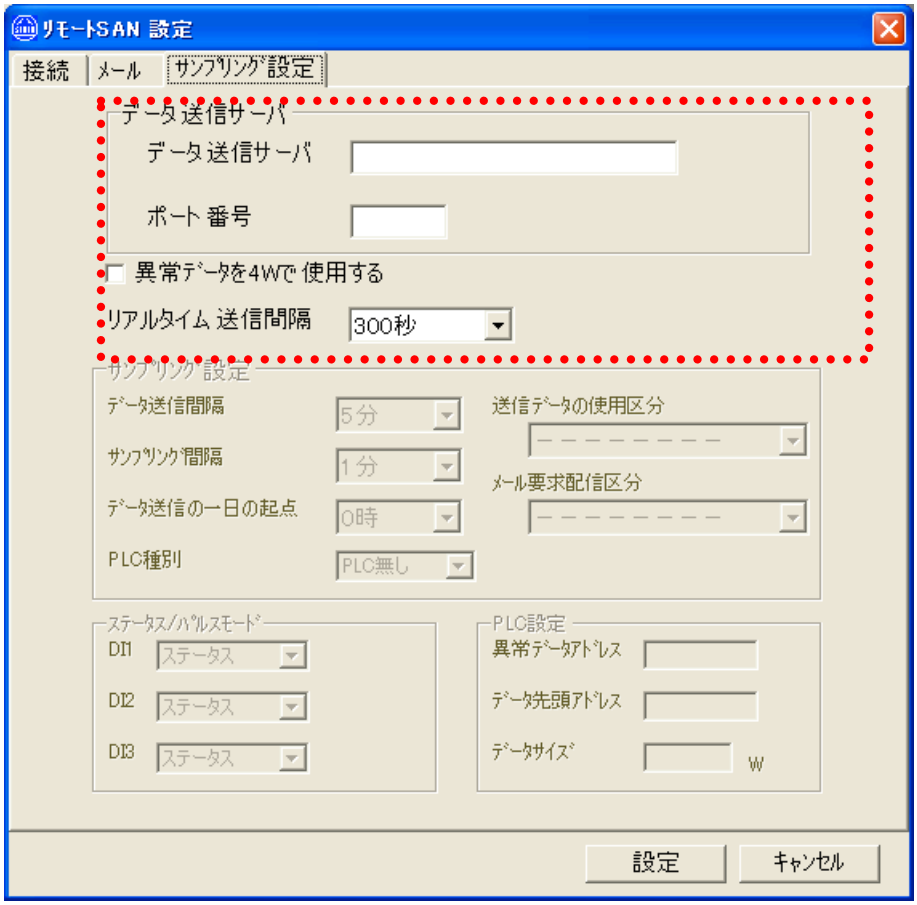
② メールタイトル（件名）
・RemoteSAN Emergency Mail!!

③ メールメッセージ（本文）
・PPP cannot be connected.
・【端末 ID】

※【 】内は設定した情報になります。

メッセージ内の端末ＩＤ（電話番号）にて、緊急メールを送信した端末を判別してください。

［サンプリング設定］



［データ送信サーバ］　　サーバ設置時に決定されます。

［ポート番号］　　サーバ設置時に決定されます。

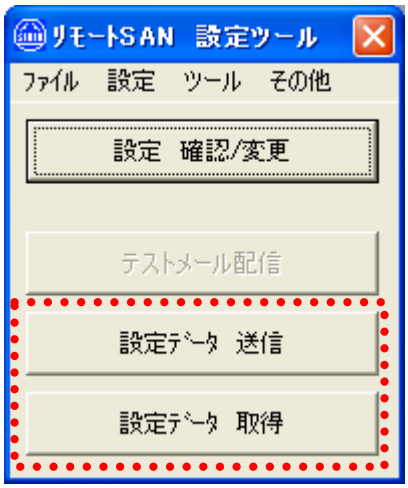
［異常データを4Wで使用する］　異常データを４W使用時はチェックマークを入れてください。
チェックマークなしは２W使用です。

［リアルタイム送信間隔］　　リアルタイムモニタにおけるデータ収集間隔を選択してください。
（５秒、１０秒、２０秒、３０秒、６０秒、３００秒）

注）定期収集データや異常信号の処理中などＣＰＵが高負荷状態になりますと、
設定間隔通りにデータ閲覧が出来るとは限りません。

以上で設定項目の説明は終わります。
設定画面の右下にある［設定］をクリックして、設定データの送信を行ってください。

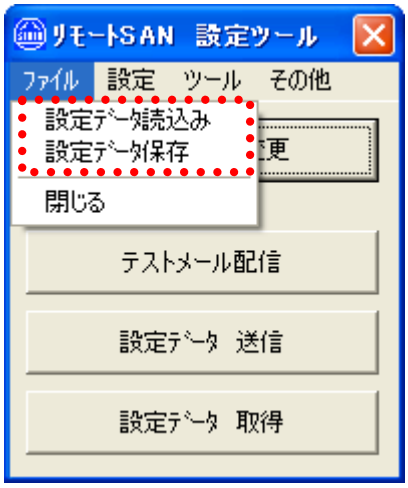
設定データを送信または取得します。



［設定データ　送信］　　端末に設定データを送信します。

［設定データ　取得］　　端末から設定データを取り込みます。

［ファイル］をクリックすると次の操作ができます。

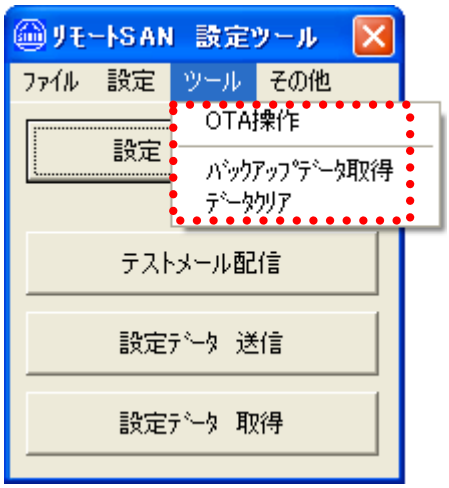


［設定データ読込み］　　ファイル保存した設定データを読込みます。

［設定データ保存］　　設定データをファイル保存します。

設定終了後は［閉じる］をクリックして終了してください。

［ツール］をクリックすると次の操作ができます。



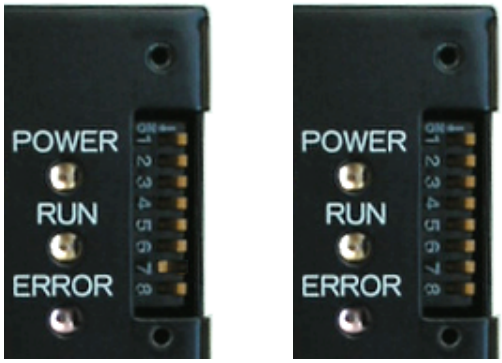
［ＯＴＡ操作］　　ＯＴＡ操作を行います。
ＯＴＡ操作については「クラウドロガー　ＯＴＡ操作説明書」をご覧下さい。

［バックアップデータ取得］
端末内に収集済みデータが送信されず残った場合に
ＴＯＯＬから収集済みのデータを取得します。
ＣＳＶ形式で保存されます。

［データクリア］　　端末内の収集済みデータエリアをクリアします。

運転モード

端末の設定が全て終了しましたら、電源を切ってから設定用ディップスイッチ（ＤＩＰ－ＳＷ１）を全てＯＦＦに設定します。



SW番号	ＰＬＣ接続	
	有り	無し
１～６	ＯＦＦ	ＯＦＦ
７*1	ＯＮ	ＯＦＦ
８	ＯＦＦ	ＯＦＦ

＊１　ＰＬＣ接続時、通信ボーレート設定
　　ＯＮ：　９６００bps
　　ＯＦＦ：４８００bps
　　ＰＬＣを接続しない場合はＯＦＦにしてください。

電源を入れ、端末を立ち上げてください。

ＰＯＷＥＲが点灯、ＲＵＮが点滅、ＥＲＲＯＲが消灯するまでお待ちください。
約１１０秒で立ち上がり完了となります。
状態表示ＬＥＤについては『1- 特徴と機能概要』をご参照ください。

データバッファーの説明

データバッファーエリアはＥＥＰＲＯＭにて構成されています。
書込み回数１０万回まで使用可能です。（書込み１０万回／ページ）
１ページ２５６Byte で構成されています。端末側にて収集データ数ＭＡＸ１００Ｗを選択した場合は１ページに１回分のデータが蓄積されます。バッファーエリアはＭＡＸ５０３ページです。５０３回分のデータを蓄積することができます。
データ量が３９Ｗ以下の場合は１ページに３回分のデータが蓄積されます。
データ量が４０Ｗを超える場合は１ページに１回分となります。